

## 勝ち負けにこだわる子 (いつでも一番でないと怒る)

### 子どもの状況

じゃんけんやゲーム、かけっこなどで勝つことに強いこだわりを見せます。負けると悔しくて人や物のせいにして怒ったり、大騒ぎしたり、すねたりします。なかには負けるのが嫌だからと最初からゲーム自体を拒否したり、負けそうになると途中でやめてしまったり、道具をぐちゃぐちゃにしたり、相手をたたいたり、勝手にルールを変えようとしてけんかになることもあります。

### 対応

あらかじめ「ゲームは勝ち負けがあるから面白い、だれでも勝つことがあれば負けることもある」ということを伝えて、「負けるかもしれない」ことを予告しておきます。ゲームを始める前に「負けても怒らない・泣かない」と全員で約束しておきます。

負けて感情のコントロールができなくなった時は、まずその場から離します。そして「どうしたの?」と気持ちを言葉で表現するように促したり、「悔しかったね」「次は勝てるといいね」と子どもに寄り添って気持ちを代弁したりすると、気持ちを立て直し切り替えができるようになります。

活動での本人の態度や経過に目を向けられるように、「最後まで諦めずに頑張ったね」「この前より上手になったね」などと結果以外の点を評価して、「今度は～するともっと上手になるよ」と次回への解決策を一緒に考えていくことも重要です。

勝つことへのこだわりを減らすためには、ゲームのルールを「負けた人が勝ち」に変えてみることや実力ではなく運で勝ち負けが決まるようなゲームをする、勝ち負けに関係のない活動や遊びを多くするなどの工夫をします。勝敗を経験させるのなら、短い時間で繰り返しできる遊びを選ぶのも一案です。

「負けることが損ではないこともある」「どんなに頑張っても負けることがある」という気持ちを持たせることで、「嫌だけど負けることもあるか…」と負けることを受け入れられるようになってほしいと思います。

参考 園で気になる子どもの理解と関わり方・・・日本保育保健協議会発達支援委員会  
「育てにくさ」に寄り添う支援マニュアル・・・診断と治療社

保育と保健 第27巻 第2号 July2021